

「あなたの履きものは？」

北海道 てんそうじ 天總寺副住職 たに 谷 りゅうじ 龍嗣

忙しかった今年も、あと一か月となりました。

12月を師走とも言いますね。師走の語源は様々ですが、仏事でお坊さんが慌ただしく駆け回るという意味があるようです。

そんな忙しいお坊さんですが、常に気を付けていることがあります。それは、「足元」です。

大本山總持寺のお手洗いには、このような言葉が掲げられています。
「はきものをそろえると心もそろろう。心がそろろうとはきものもそろろう。
ぬぐどきにそろえておくと、はくどきに心がみだれない」

これは、一つ一つを丁寧に生きるという禅の教えを伝えています。
忙しい毎日、つつい^{なおざり}等閑にしていることはありませんか？それは、「相手」です。

先日、忙しさを理由に自分の事ばかりになってしまう私に、先輩のお坊さんが「自分が忙しい」「自分が苦しい」「自分がつらい」と考えていないかい。そんな時は、「自分という主語を『あなた』に変えてごらん」と言ってくれました。

そうすると、目の前にいる大切な人も、つらく、苦しいことを背負っている。そんな、当たり前前にことに気付かされます。

そう考えると、実は、自分の苦しみや悲しみは決してマイナスのものではなく、時として相手の苦しさや悲しさに心を寄せる事ができる、思いやりの力にもなるのです。

相手の苦しみを我が苦しみと受け入れる。これは、仏様の慈悲の心の表れです。

その慈悲の心をもって毎日の行いをしましようという言葉が、先ほどの履きものの詩の続きです。

「だれかがみだしておいたら、だまってそろえておいてあげよう。

そうすればきっと 世界中のひとの心もそろうでしょう」

相手のつらさや、悲しさを少しでも自分事として考えられたら、そっと相手の為になる事をしましよう。そうすれば、きっと世界中が幸せになるでしょう。という言葉です。

あなたも私も、全ての人が幸せになる行いは足元にあります。相手の事を思って丁寧に生きる。そんな一歩を新たな年に向けて、共に歩み出して行きましょう。